愛媛県
イメージアップキャラクター
みきゃん

らいぶらり えひめ
Library Ehime

2024(R6)10.1 発行
No.240
愛媛県立図書館報

1冊の本が人生を変える

愛媛県立図書館長
豊田　益実

「夏休みの自由研究相談会は私に担当させてください。」企画担当者から相談を受けた際に思わず口から出てしまった言葉です。愛媛県立図書館の館長が自由研究相談会を担当することは、前代未聞です。本音を言うと自分でやってみたかったのです。図書館に勤務する前は高校の理科教員であった自分の経験やスキルが生かせる最大のチャンスです。ワクワク感が止まりません。結局私の希望が通ってしまい、令和５年度は、小・中学生11組の自由研究の相談をさせていただきました。その中から２名が愛媛県児童生徒理科研究作品で努力賞に入賞したと連絡があり、お礼の言葉をいただきました。これに気を良くして、本年度も私が担当することになりました。内容を見直し、全体説明会と個別相談会の２部に分けてより多くの人に参加していただけるように配慮しました。個別相談会に参加していただいた方には、研究テーマに合った参考図書をご紹介させていただきました。結果、18組が全体説明会に、19組が個別相談会に参加されました。今年も誰か入賞しないかなと密かに期待しています。

個別相談会で相談をお受けしていると、「自由研究は子どもの宿題なのだから、保護者は手を出すべきではない。」とか、「自由研究は親の夏休みの宿題なのか？」という声が聞かれます。確かに子どもの宿題なのですが、私は保護者や先生がアドバイスや子どもにはできない作業を手伝うことは良いことだと考えています。例えば、中学校や高校の部活動は生徒の自主的な課外活動ですが、熱心な顧問の先生やコーチの指導によって技能の向上や心の成長が実現されます。自主的な活動だからと理屈を言って放任したら、結果がどうなるかは明らかでしょう。部活動も自由研究も子どもたちに正しい道を指し示し、間違って迷路に迷い込んだら正しい分岐点まで戻してあげることは大人の責務であり、この過程において子どもとの信頼関係や絆が深まるのではないでしょうか。

また、「子どもにコンクールや作品展で賞を取らせてあげたいがどうしたらよいか？」というご質問をされる方もいます。確かに賞自体は本人の自己肯定感やモチベーションを高めることに有効ですが、それだけが目標ならば、少し寂しいように思います。自由研究には観察や実験の過程で、様々な発見や驚きがあります。また、本や論文で調べることを通して多くの知識を得ることができます。インターネットによる検索ではキーワードに関係した狭い範囲の情報しか得られませんが、本や論文の場合は、それとは直接関係のない様々な情報まで得ることもできます。そして、研究をレポートにまとめ、発表することは、子どもの人生観や将来の進路に大きな影響を与えることになるのです。

私の母校である宇和島東高校には当時、高校が独自に設定する「理数理科」という科目がありました。１年間を通して自分たちが自由研究を行い、年度末の３月に学校内で研究発表会を行います。

まず、１学期に研究テーマを決めるのですが、担当の先生から学校図書館に行って研究テーマに関する内容を徹底的に調べてくるように言われました。その図書館で見つけたテーマが「細胞融合」です。ジャガイモ（ポテト）とトマトの細胞を融合させ、成長させると、地上にはトマト、地下にはジャガイモが同時に実ります。この「ポマト」と呼ばれる雑種植物の記事を科学雑誌で見つけたのです。その瞬間、私の頭の中では次のような妄想がひらめきます。「地上にはパセリ、地下にはニンジンが実る雑種植物を作れないだろうか？捨てる部分が全くない。」もちろん名前は「パセジン」です。今でもアイデアと構想は100点満点だと自負しているのですが、実際に細胞融合に取り組んでみると大学レベルの実験設備が必要だとわかり、パセジンの研究は失敗に終わりました。しかし、諦めの悪い私は何としても細胞融合をやってみたくなり、進学先を工学部から細胞融合の研究ができる農学部に変更して猛勉強を始め、無事合格することができました。大学での卒業論文のテーマは、細胞融合を活用して真珠貝（アコヤガイ）を巨大化させ、大きな真珠を作ることでした。結果はまたしても失敗に終わるのですが、気持ちを切り替え、実験の楽しさを子どもたちに伝える理科教員の道へ進みました。

皆さんも図書館にある１冊の本との出会いが人生を大きく変えることがあると思いますよ。

県立図書館の子ども読書活動推進

平成13(2001)年12月に国が「子どもの読書活動の推進に関する法律」を定めてから20年以上経ちました。愛媛県でも平成16(2004)年３月に「愛媛県子ども読書活動推進計画」(以下、推進計画)が策定されました。５年毎に見直し、令和６年３月からは第五次推進計画がスタートしています。

その中で、県立図書館のブックトーク事業は、第一次推進計画から変わることなく主要な取組です。

○県立図書館のブックトーク事業

令和５年５月に新型コロナウイルスが５類に移行したことで、暮らしの中の多くのことが以前の姿を取り戻しました。

学校に当館職員が出向いて行うブックトーク事業も、以前のように実施できるようになり、５年度は10校で実施し、６年度は５校で実施の予定です。

平成17(2005)年度からは、他部署と連携したブックトーク事業を行っています。

愛媛県立医療技術大学とは医療を、県観光国際課とは国際理解を、県循環型社会推進課とは環境をテーマにして、各分野の専門家の講話とブックトークを合わせて、行っています。

○ブックトークはじめま専科の開催

令和５年度から、ブックトークの実践者の裾野を広げるための講座「ブックトークはじめま専科」を、当館で開催しています。参加者はグループでブックトーク作りをしました。皆さん非常に熱心に取り組まれていました。

ブックトーク作成には時間と体力を使います。子どもの反応次第で台本どおりに進まないこともあります。それも楽しみながら、子どもと本との出会いの橋渡しをしてほしいと思います。

○おでかけ県立図書館

この事業は、図書館のない地域の学校に伺い、当館蔵書の出張貸出や、絵本・紙芝居の読み聞かせ、ブックトーク等を実施し、子どもの読書活動推進を図るものです。令和４年度は愛南町と鬼北町の学校へ、５年度は松野町と鬼北町の学校へお邪魔しました。

６年度は、当館の学習支援用協力図書「まなぼん」の利用促進も併せた催しを計画しました。６月28日、愛南町の平城小学校と家串小学校に伺いました。

平城小学校は１、２年生56名に、家串小学校は全校23名に対して、「まなぼん」の一括貸出、職員によるおはなし会と、「まなぼん」から選んだ本のリレーブックトークを行いました。

両校とも、児童らは素直に反応を返してくれ、「まなぼん」の本を熱心に読んでいました。職員も、児童から元気をもらって帰りました。

○これからの「まなぼん」の運用

第五次推進計画で新たな取組としていることに、「まなぼん」の運用における電子版読書通帳「みきゃん通帳」の活用があります。今後、「みきゃん通帳」のランキング機能から読書傾向の分析を行い、それを基に「まなぼん」の効果的な貸出を行う予定です。

利用された学校には毎回アンケートを実施していますが、回答のあった学校のうち88%から「とてもよかった」と評価していただいています。

ひとりでも多くの子どもたちの読書体験の支えとなれるよう、これからも「まなぼん」の周知に努めていきます。

(読書振興グループ　東　智子)

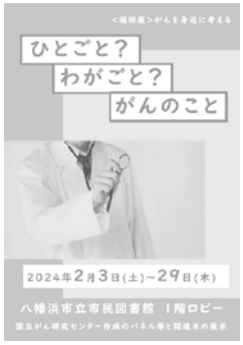
ただいま県内巡回中！「がん展示キット」

がんは、日本人の２人に１人がかかると言われる身近な病気です。国立がん研究センターは、従来から「確かな」「わかりやすい」「役に立つ」がんの情報を、ウェブサイト「がん情報サービス※」で提供してきましたが、インターネットにアクセスしにくい方も情報を入手できるように、「がんの冊子」等をセットにして、公共図書館や公民館等に寄贈する「がん情報ギフト」プロジェクトを立ち上げました。当館も、平成30（2018）年６月に受贈したセット一式を一般図書室医療健康情報コーナーに常設しています。

国立がん研究センターは、更に、このプロジェクトの一環として、がん患者が直面する食事や就労、経済面など生活上の課題についての本63冊を選び、９枚のパネルとともに展示できるようにした「展示キット」を作成しました。令和３年度から４年度にかけて、希望する全国の図書館で「展示キット」を使った巡回展示を実施し、当館も令和５（2023）年２月～３月に「＜巡回展＞身近にがんを考える」を開催しましたが、巡回終了後の「展示キット」受入を希望したところ、幸運にも寄贈いただける運びとなりました。

当館に受け入れた「がん展示キット」をより多くの方に利用いただくため、このたび、県内の公共図書館を会場にした巡回展示を開始しました。

「がん展示キット」は、展示パネル（Ａ３サイズ）と図書63冊からなる「展示キットＡ」と、展示パネル（Ａ２サイズ）のみの「展示キットＢ」の２種類あります。１館につき１か月単位で、令和６（2024）年２月の八幡浜市立市民図書館を皮切りに、令和７（2025）年６月まで、県内各地を巡回します。当館ホームページに巡回予定を掲載しているほか、趣向を凝らした県内各図書館の展示の様子も、随時紹介しています。お近くの図書館に巡回した際は、ぜひ足をお運びください。



←八幡浜市立市民図書館

↓松前町ふるさとライブラリーのがん巡回展示

※がん情報サービス　https://ganjoho.jp

（相談グループ　橘　可奈子）

県民皆様の課題解決のために ～県立図書館での１年を振り返って～

愛媛県立図書館に勤めて、一年が経ちました。館内には、子ども読書室、一般図書室、えひめ資料室があり、書庫内の図書を含めるとおよそ75万冊を所蔵しています（令和５年度末、協力図書等含む）。市町立図書館と比べると専門的な資料が多いことが特徴のひとつで、県民の皆様の課題解決を支援できるよう努めています。私自身、利用者の方の調べもののお手伝いをさせいただく機会が増え、紙媒体の資料はもちろん、国立国会図書館デジタルコレクションや愛媛新聞オンラインデータベースなど、これまでは利用したことがなかったデータベースの活用に奮闘する毎日です。

現在、私は、一般図書室でのカウンター業務のほか、子育て支援情報コーナーと相互貸借業務を主に担当しています。

子育て支援情報コーナーでは、出産･育児から、園や学校での生活、児童福祉にいたるまで、子育て世代や教師向けの資料を幅広く取り揃えています。２～３か月ごとにテーマ展示をしているほか、県内の関係機関から届く子育てに関するパンフレットやチラシなども配布しているので、ぜひご活用いただければと思います。

相互貸借とは、他の図書館から資料を取り寄せることができるサービスです。「近くの図書館にほしい本がなかった……」ということはありませんか。このサービスを利用すれば、県立図書館への取り寄せはもちろん、県立図書館や県外の図書館の資料をお近くの市町立図書館へ取り寄せることも可能です。取り寄せの条件は図書館によって異なりますが、「ほしい本が見つからない」という場合は、ぜひ図書館の職員にご相談ください。また、県立図書館では、図書館未設置の自治体にも、公民館図書室や役場の図書コーナーを通して資料の貸出を行っています。お住まいの自治体に図書館がないという方も、ぜひ公民館図書室等にお問合せください。

近年、電子図書館のような非来館型のサービスが注目されるなど、図書館に求められるサービスは大きく変わってきています。より多くの県民の皆様に図書館を活用していただけるよう、社会・時代にあったサービスを考えながら、司書としての経験を積んでいきたいと思います。

（相談グループ　山本　美里）

視聴覚係があった頃

愛媛県教育文化会館50周年 こぼればなし①

令和７年は愛媛県立図書館が設立されてから90周年、現在の教育文化会館に移転・開館してから50周年にあたります。そこで今号と次号の２回にわたり、県立図書館の歴史を振り返ります。

愛媛県教育文化会館は昭和50（1975）年５月15日に完成、県立図書館は10月１日に開館しました。11月に発行された『えひめ読書通信』151号の「新しい図書館」という記事では、「教養資料センター的機能」「情報資料センター的機能」「文書館的機能」「視聴覚ライブラリー的機能」「集会・展示活動」「県下図書館網の中核的機能」が紹介されています。このうち「視聴覚ライブラリー的機能」については、「このたび、社会教育ないしは文化的施設としての図書館を総合的に運営するため、視聴覚ライブラリーを迎え入れました。視聴覚ホールには、映画・テレビ・ステレオ・録音テープ等に関する最新の機器が整備されました。」と書かれています。

ここで迎え入れられた視聴覚ライブラリーとは、愛媛県視聴覚ライブラリーのことです。昭和23（1948）年10月に県庁の一角に設置され、映写機・幻灯機の整備貸出、映写技術者の養成、映画・スライド・紙芝居の貸出等を行っていました。視聴覚ライブラリーはその後、同28（1953）年４月に県立図書館内へ、同33（1958）年10月に県議会議事堂内へと移転しました。

教育文化会館移転を機に、県立図書館の業務課視聴覚係が視聴覚ライブラリーの機能を担うことになりました。具体的には、視聴覚資料の収集や市町村等への貸出、視聴覚関連行事の実施、視聴覚機器の操作講習会の実施等です。

昭和50年11月７日に第１回教育映画祭（映画会）、15日には第１回レコード・コンサート（ステレオコンサート）が開催され、新たな図書館の幕開けを飾りました。いずれも毎月１回のペースで開催されていました。教育映画祭（映画会）は視聴覚係の職員が映写機を操作し、『永遠の海』『わんぱく漂流記』等の幼児から一般向けまでの幅広い作品が上映されていました。レコード・コンサートは松山商科大学（現・松山大学）ＬＰレコード・コンサート部の学生が運営・解説を行ったこともあったようで、クラシックやジャズ、映画音楽、フォークソング等さまざまな分野の曲が上演されていました。

昭和51（1976）年の読書週間には、視聴覚機器展示会が行われました。これはメーカーの協力を得て最新の視聴覚機器を教育関係者や一般に紹介するものです。翌52（1977）年５月には16ミリ映写機技術講習会が開催されました。これは映写技術の理論と実技を学ぶもので、学校や公民館の関係者が受講しました。視聴覚機器の操作講習会は、県立図書館だけでなく県内各地でも開催されました。

昭和57（1982）年４月、視聴覚関係業務は新設された愛媛県総合教育センターに移管されました。移管後もステレオコンサートと教育映画会は行われたようで、『まつやま　タウン情報』（現・タウン情報まつやま）の「コンサート・イベントガイド」欄では、平成２（1990）年４月（第198回ステレオコンサート、教育映画会）までの開催情報が確認できました（県視聴覚センター主催）。これに加えて、子ども映画会や親子映画会等が県立図書館の事業として行われており、映画会は同９（1997）年まで行われていた記録があります。映画会での機器の操作は、総合教育センターの職員が行うこともあれば、講習で技術を身につけた県立図書館の職員が担当することもあったそうです。

視聴覚ホール調整室の機器（当時）

教育文化会館に設けられた視聴覚ホールには、16ミリ映写機や８ミリ映写機、テープレコーダー、スライド映写機等が備え付けられていました。これだけの視聴覚機器を揃えていた施設は県内に他になかったそうで、当時視聴覚係だった永田利久さんは「あの頃が一番楽しいときだった。」と振り返ります。10年に満たない期間しか存在しなかった視聴覚係ですが、最盛期の映画フィルムの利用は、年間貸出件数約１千件、のべ利用本数約５千本、利用人数約13万人に上りました。もし、そのまま視聴覚係、視聴覚ライブラリーが県立図書館にあったらどうなっていたのでしょうか。あったかもしれない未来を考えることも、時には必要なのかもしれません。

参考文献
『要覧』『えひめ読書通信』『読書えひめ』愛媛県立図書館
『愛媛県史　教育』愛媛県　1986年
『まつやま　タウン情報』SPC

（相談グループ　天野　奈緒也）

広報紙でみる愛媛の市町村合併

皆さんのお住まいの自治体で毎月発行されている広報紙。今月はもうご覧になりましたか？県立図書館では県内の自治体の広報紙を収集し、保存しています。令和６年には平成の市町村合併から20年を迎える自治体が多いことから、えひめ資料室では当時の広報紙にスポットを当て紹介する展示を行いました。合併により愛媛県は70市町村から現在の20市町となりました。合併前の自治体の広報紙には、これまでの歴史や過去に発行してきた広報紙を振り返る内容が見られます。また､合併後に新しく誕生した自治体の広報紙では、開庁式の写真や新市町スタートへの期待などが見られ、当時の様子を伝えてくれます。

展示の企画当初は､ロビーにある３台の展示ケースにすべての市町村の広報紙を陳列する予定でしたが、実際に並べてみるとその数は多く、東予・中予・南予編の３期に分けて展示することになりました｡また､関連資料として合併協議会だよりや、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業ＷＡＲＰが収集・保存・提供している合併前の市町村の公式サイトも併せて紹介しました。

自治体からのお知らせやイベント情報が詰まった広報紙は住民に「今」の情報を届けてくれます。こうした広報紙を郷土の資料として図書館で保存していくことで、長い年月を超え、現在の私たちに「当時」の様子を伝えてくれるかけがえのない資料となります。

今回の展示は既に終了していますが、県立図書館では県内20市町の最新の広報紙を見ることができます。紙面のデザインや大きさなど様々なので、自分の住んでいる自治体と見比べてみてください。＜会期　令和６年６月29日～９月26日＞

展示「広報紙でみる愛媛の市町村合併」の様子

（図書整理グループ　堀内　悠加）

「愛媛県史資料編」収録資料目録の整備について

当館４階のえひめ資料室では、愛媛・俳句に関する資料、諸家文書、諸家文庫、マイクロフィルムの収集・保存・提供に努め、愛媛・俳句に関するお問合せに回答するレファレンスサービスを行っています。

愛媛に関するレファレンス調査では、当館の蔵書検索データベース（県内歴史関係雑誌等の論考タイトル等も入力しており、検索可能）のほか、愛媛県生涯学習センターがウェブサイトで公開しているデータベース「えひめの記憶」（「愛媛県史」等の本文が検索可能）による検索で手がかりを得てから調査に取り掛かることが多く､「えひめの記憶」には、いつもお世話になっています。

しかし､「えひめの記憶」には､「愛媛県史」（全40巻）の「資料編」（14巻）は含まれておらず、図書を同じ場所に配架しながら、本文編に比べて、資料編を十分に利用できていないことが気になっていました。かなり専門的なことを問い合わせて来られる利用者もいるため、資料編の収録資料を調査することもありましたが、時々しか手に取らない資料は、構成や編集方針の把握が難しく、職員にも苦手意識がありました。

そこで、レファレンス資料の作成の一環として､「『愛媛県史資料編』収録資料目録」の整備を行うこととしました。古代・中世から着手し、完成品も増加しました。当館ウェブサイトの「探す･調べる＞郷土資料＞図書＞･愛媛県史資料編：収録資料の目録は、こちらからご覧いただけます。」から目録掲載ページに進みますので、ぜひご利用ください。

国立国会図書館のデジタル化が進み、検索手段がないわけではないのですが、一覧表形式の通覧性のよさは、便利なものと考えます。今後もレファレンス資料の作成に励んでまいります。

（図書整理グループ　柚山　紀子）

伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪
愛媛県読書グループ連絡協議会（県読連）ー総会・読書推進大会だよりー

令和６年度　総会・読書推進大会

令和６年５月31日（金）、松山市道後のにぎたつ会館にて、愛媛県読書グループ連絡協議会の総会並びに読書推進大会が開催されました。今年度は、創立60年の節目の年であり、県内各地から読書グループ関係者、読書愛好家等92名もの皆様にご参加いただきました。

総会は、森川啓子会長を議長として進行され、令和５年度の事業報告と収支決算、令和６年度の事業計画と予算、役員改選の審議が行われ、すべて承認されました。他の議題として、令和７年度に愛媛県で初めて開催される全国図書館大会に、県読連が参加する予定であること等をお知らせしました。総会の最後には、「県読連60年の歩み」として、写真スライドを映しながら、これまでの歴史を振り返りました。

続く大会では、私設図書館「ピクチャーブックライブラリーくらら」（松山市）の代表・川瀬久美子氏による事例発表「蔵の図書館で暮らしに文化を」がありました。「くらら」を始めたきっかけや、地元三津浜で開催したイベント等について、写真でご紹介いただきました。発表後の研究協議では、貸出方法や本の整理等について会場から質問がありました。

大会の後半は「本とタルト」と題し、俳人の坪内稔典氏よりご講演をいただきました。愛媛県伊方町のご出身で、この日は大阪から来県されました。坪内氏の少年時代の本の思い出や正岡子規の作品との出会いについて、また、電子書籍を活用する現在の読書スタイルや読書会等についてお話いただきました。最後は坪内氏の好きな詩を、参加者とともに朗読されました。

坪内　稔典 氏

坪内氏の気さくな人柄が会場全体に伝わり、終始和やかな雰囲気で、参加者はお話に引き込まれていました。講演終了後、会場は大きな拍手に包まれました。

（読書振興グループ　岡本　かおり）

＜子どもとたのしむ絵本の時間　小学５・６年生と一緒に読みたい絵本＞

県内の読み聞かせボランティアの方々に、小学５・６年生への読み聞かせにおすすめの絵本についてアンケートを実施し、リーフレットにまとめました。

高学年らしく、卒業、平和、ＳＤＧｓ等に関する絵本も紹介しています。ぜひ、絵本選びにご活用ください。

＜探検しよう！本の国　子どもにおすすめの本2024＞

県立図書館が、平成16（2004）年から作成している推薦図書リストです。一年間に当館で受け入れた子どもの本の中から、対象別に10冊ずつ、合計50冊を選びました。ＡＩやジェンダー、コロナワクチンに関するもの等、世相を表す内容の本や、読み応えのある物語等、バラエティに富んだラインナップを心がけています。

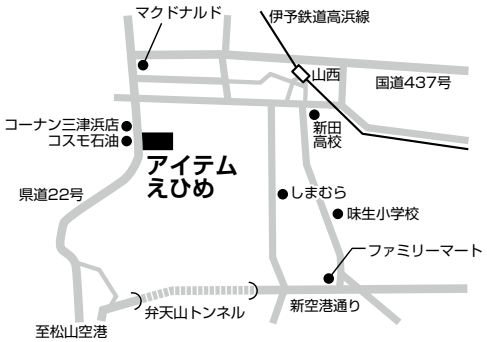
（読書振興グループ　岡本　かおり）

耐震改修等工事に伴う一時閉館について

愛媛県立図書館は、耐震改修等工事の実施に伴い一時閉館します。工事期間中は完全閉館となり、皆様にはご迷惑をおかけしますが、安全かつ迅速な施行のため、ご理解とご協力をお願いいたします。なお、工事期間中は、アイテムえひめにて仮設図書館を開館し、できる限り図書館サービスを継続してまいります。

【閉館期間】 2024年11月1日（金）から

【仮設図書館OPEN】 時期：2025年2月予定
場所：松山市大可賀2丁目1−28
アイテムえひめ3階
スカイホール及びアースホール



編集・発行 愛媛県立図書館
〒790−0007　松山市堀之内
TEL 089-941-1441（代表）　FAX 089-941-1454
https://lib.ehimetosyokan.jp
e-mail:tosyokan@pref.ehime.lg.jp（代表）